2025年3月19日

院外処方せんにおける問い合わせ簡素化のプロトコル

りんくう総合医療センター 薬剤部門

1. 目的

保険薬局からの問い合わせの中には調剤上の形式的な変更に関するものも多く、患者さん・薬局薬剤師・処方医師それぞれに負担をかけている場合があります。

そこで当院では、2010年4月30日付 厚生労働省医政局長通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」を踏まえ、プロトコルに基づく薬物治療管理の一環として、調剤上の典型的な変更に伴う問い合わせを減らし、患者への薬学的ケアの充実および処方医師の負担軽減を図る目的で本プロトコルを運用します。

2. 各種問い合わせ(受付時間、連絡先)

① 問い合わせ簡素化プロトコルの運用に関すること

平日 8時45分から 17時00分

病院代表 : 072-469-3111 【内線 : 2883 (薬剤部門長)】

② 処方内容に関すること(通常の疑義照会)

平日 8時45分から 17時00分

院外処方箋窓口 : 072-464-5054

平日時間外・休日

病院代表 : 072-469-3111

※上記に連絡し、処方医師に連絡をとってください。

※処方医師に連絡がつかない場合は、診療科の当番医師に連絡をとってください。

3. 処方変更・調剤後の連絡

処方変更し調剤した場合は、その内容を FAX(072-460-2278)にて薬剤部門に連絡してください。オーダーリングシステム内の処方を修正し、次回からの処方に可能な範囲で反映させます。ただし、一般名処方に基づいて調剤した場合の情報提供、および後発医薬品の変更報告書の連絡は不要です。

4. 問い合わせ簡素化プロトコルの原則

- ◆ 運用開始に先立ち、病院と薬局との間で合意書を交わすことを必須とします。
- ◆ 麻薬に関するものは対象外とします。
- ◆ 処方せんに「変更不可」や「含量規格変更不可」の指示がある場合は対象外とします。
- ◆ 必ず患者さんに説明(服用方法、価格等)後、同意を得て変更してください。
- ◆ 薬剤の変更により適応症が異なる場合、適応外使用にならないように留意して下さい。

5. 問い合わせ不要例

① 成分名が同一の銘柄変更

- ◆ 先発品間でも変更は可能です。
- ◆ 薬価が高くなる場合も含まれます。

例: グラクティブ錠 50mg ⇔ ジャヌビア錠 50mg

例: ムコスタ錠 100mg ⇔ レバミピド錠100mg「サワイ」

② 内服薬の剤形変更

- ◆ 安定性、利便性向上のための変更に限ります。
- ◆ 用法・用量が変わらない場合のみ可能とします。
- ◆ 薬価が高くなる場合も含まれます。
- ◆ 安定性、溶解性、体内動態等を考慮して行ってください。

例: ビオフェルミンR散 → ビオフェルミンR錠

例: アレロックOD錠5mg → アレロック錠5mg

例: ワーファリン錠1mg 0.2錠(粉碎) → ワーファリン顆粒 0.2% 0.1g

例: アスベリン散 10% 0.4g → アスベリンシロップ 0.5% 8ml

③ 患者の希望があった場合の消炎鎮痛外用貼付剤における、パップ剤⇔テープ剤への変更(成分が同じものに限る。枚数に関しても原則同じとする。)

例: ロキソニンパップ100mg → ロキソニンテープ 100mg

④ 別規格製剤がある場合の処方規格の変更

- ◆ 安定性、利便性向上のための変更に限ります。
- ◆ 薬価が高くなる場合も含まれます。

例: 20mg錠 1回2錠 → 40mg 1回1錠

例: 20mg錠 1回0.5錠 → 10mg 1回1錠

- ⑤ 一般名処方における調剤時の類似剤形への変更(先発品類似剤形への変更を含む)
- ◆ 一般名処方においては、下記に掲げる範囲内で変更を可能とします(先発、後発は問いません)。
 - i)錠剤(普通錠)、錠剤(口腔内崩壊錠)、カプセル剤、丸剤、ゼリー剤(1回分包装の場合)、フィルム剤(口腔内崩壊剤)
 - ii)散剤、顆粒剤、細粒剤、末剤、錠剤(粉碎指示)、ドライシロップ剤(内服用固形剤として調剤する場合に限る)
 - iii)液剤、シロップ剤、ドライシロップ剤(内服用液剤として調剤する場合に限る)
 - ◆ 銘柄等については「お薬手帳」による情報提供を徹底して下さい

例:【般】プロチゾラム口腔内崩壊錠0.25mg

- プロチゾラムOD錠0.25mg「サワイ」(従来より可)
- レンドルミンD錠0.25mg(従来より可)
- プロチゾラム錠0.25mg(従来より可)
- レンドルミン錠0.25mg

- ⑥ 一包化調剤への変更
- ◆ 患者希望またはアドヒアランス不良が一包化により改善されると判断できる場合に限ります。
 - ◆ 抗腫瘍剤は対象外とします。
 - ◆ 一包化不可の処方除きます。
 - ◆ 患者希望により一包化を外すことも可能とします。
 - ◆ 安定性のデータに留意してください。
- ⑦ 湿布薬や軟膏での規格変更に関すること
- ◆ 合計処方量が変わらない場合を原則としますが、採用の都合上、合計処方量に合わせるできない場合は、近似した処方量に変更する事も可能とします。

例:ヒルドイドクリーム 25g 2本 → ヒルドイドクリーム 50g 1本

例:インドメタシンパップ(7枚/袋) 5袋 → インドメタシンパップ(5枚/袋) 7袋

例:セルタッチパップ(6枚/袋) 4袋 → セルタッチパップ(7枚/袋) 3袋

例:ヒルドイドフォーム 0.3% (92g/本) 1本 → ヘパリン類似物質外用泡状スプレー0.3% (100g/本) 1本

⑧ 患者希望によるフレーバーの変更

例:ラコール配合経腸用液 200ml(ミルク) → (コーヒー)

⑨ アドヒアランス等の理由により半割、粉碎あるいは混合すること、またはその逆(規格の追加も含む)。

- ◆ 安定性のデータに留意してください。
- ◆ 抗腫瘍剤は対象外とします。

例:バクタ配合錠 1錠 → バクタ配合錠 0.5錠×2

例:ワーファリン錠 1mg 3.5錠 → ワーファリン錠 1mg 3錠
ワーファリン錠 0.5mg 1錠

⑩ 外用剤の用法(適用回数、適用部位、適用タイミング等)が口頭で指示されている場合の用法の追記

- ◆ 処方せん上、用法指示が空白あるいは「医師の指示通り」が選択されており、なおかつ薬歴上あるいは患者面談上、用法が明確な場合に限ります。

例:モーラステープ 3袋 1日1回 → 1日1回 腰に1日1枚

⑪ 薬歴上継続処方されている処方薬に残薬があるため、処方日数を調整(短縮)して調剤すること(いわゆる残薬調整)、および処方日数が次回診察日までの必要日数に満たないと判断される場合の投与日数の適正化

- ◆ 外用剤の数量変更も含みます。
- ◆ 抗腫瘍剤は対象外とします。
- ◆ 残薬調整した際の処方歴の変更は原則として行いません。

例:マグミット錠 330mg 30日分 → 16日分(残薬が14日分あるため)

例:ルリコンクリーム 1% 3本 → 2本(残薬が1本あるため)